

事例名

Creative な授業実践

校種・学年 高等学校・第2学年

教科・科目・単元・題材 国語科・文学国語

学校名〈任意〉 京都府立東宇治高等学校 事例報告者氏名〈任意〉 高谷 藍

機能名 (アプリ名) ロイロノート

ICT 活用のポイント

生徒の主体的な活動を助長するために、ロイロノートの「共有ノート」を使用した。具体的な活動内容としては、グループで文学作品「こころ」の一場面を読解し、解説するという活動。解説文が完成した後は、同じ共有ノート内で他のグループの解説文を見ることができ、自分たちが読解・解説した内容以外の部分を理解することができる。つまり、自分たちで読解し、解説文を考えることで理解が深まり、さらに他のグループの解説文を確認することで、自分たちが読解した範囲以外の部分においても理解が深まると考えた。

活用場面

- ①グループで解説したい一文を決める。
- ②その部分を抜き出し、解説文を作る。(共有ノート)
- ③解説文を共有する(全体・個人)



【3班イチ推し】
 文章 「P174下6行目 私は鉛のような飯を食いました。」
 解説 「私はKのこころを裏切ってしまったこと、奥さんがいつKに話してしまうかと、Kにいつ打ち明けるべきかというたくさんの悩みから私には常に緊張感と不安が介在しており、食事が喉を通らず、鉛のように食べ物を口に運ぶ手が重く味が感じられなかったということ」

【4班イチ推し】
 P197上L8
 文章 「何かお祝いをあげたいが、私は金がないから上げることができません」
 解説 「奥さんからKに私とお嬢さんが婚約したことを伝えられた後に会話する場面。ここで、初めて私とお嬢さんの婚約を知ったKはどう頑張っても未来は変わらないから、素直にお祝いのしかなかった。そして、このセリフを聞いた私は罪悪感を抱いていることがわかる。婚約を聞かされた時点で、相談相手だった私と恋心を抱いていたお嬢さんという生きる希望をKは失ったので、自殺することを心に決めていたのではないか。このセリフには、自殺を決めたKにとっての精一杯の祝福の意味が込められている」

授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

生徒はこの活動を通して「難しかったけど確実に理解が深まった」との意見が多く、授業者としても生徒の主体的な活動を見ることができたと感じた。

